

国際バカロレア (IB) 教育について

—教育改革促進としての可能性—

1 はじめに

現行の学習指導要領では3つの柱の目標を主体的・対話的で深い学びのプロセスを通して達成することが求められています。また、次期学習指導要領の改訂に向けての議論の中では探究の質の向上が焦点ともなっています。なぜ探究が重要なのか、どのように実践するのか、そしてどのように質を担保するのか、という学校や教員の問いを検討にする当たり、文部科学省が2013年以来推進している国際標準と言われている国際バカロレア機構が提供する教育プログラムが参考になるのではないでしょうか。国際バカロレア (IB) ワールド・スクール (認定校) の教育を御紹介します。

2 IB認定校の指導のアプローチ

IBの教育には発達段階に合わせて4つのプログラムがあります。



右記に挙げたプログラム共通の指導のアプローチは探究のみならず文部科学省が掲げる様々な教育方針等を具現化する方法が含まれていると考えます。

IBの指導のアプローチ	文部科学省が掲げている教育方針等
探究を基盤とした指導	主体的な学び、探究学習、探究的な学び
概念理解に重点を置いた指導	転移可能な学習、深い学び
グローバルな文脈とローカルな文脈を反映した指導	実社会の課題、文理横断・文理融合
効果的なチームワークと協働を重視する指導	対話的な学び、協働学習
学習への障壁を取り除いた指導	インクルーシブ教育、個別最適な学び
評価を取り入れた指導	評価と指導の一体化、記録に残す評価・指導に生かす評価

IB認定校を目指し、認定を取得するプロセスを通して、学校全体でこれまでの教育活動の全てを振り返り、目標を確認し、目標到達を可能にする教育方針や方法を問い直し、改善していくこととなります。学校のグランドデザインを壮大なカリキュラムマネジメントで、逆向きで設計し、1コマごとの今日の授業に落とし込んでいくプロセスです。

3 IB認定校に根差す IB使命と考え方

なぜIB校ではこのような指導のアプローチを採用しているのでしょうか。

IBの使命

国際バカロレア (IB) は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。

この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。

<https://ibo.org/globalassets/new-structure/brochures-and-infographics/pdfs/what-is-an-ib-education-ja.pdf>

IBは4つの国際教育プログラムと学習評価のシステムをIB認定校に提供することを通して、「より良い、より平和な世界を築くことに貢献する若者を育成すること」を目指しています。

より良い、より平和な世界に貢献できるのはIBの「10の学習者像」にある理念を行動として表した「探究する人」「知識のある人」「考える人」「コミュニケーションができる人」「信念をもつ人」「心を開く人」「思いやりのある人」「挑戦する人」「バランスのとれた人」「振り返りができる人」の属性を全て兼ね備えた人材と考えます。

このような人材を育てるためにIBでは学びを構成主義的アプローチで捉え、人に与えられた知識を覚える物知り博士ではなく、根拠をもって、他者と一緒に知を構成し、そして再構成していける「生涯学習者」を育てます。そのために探究という学びの経験が必要だと考えるのです。

探究以外の指導のアプローチも同じ目標に到達することを叶えるアプローチです。これら全てのアプローチを授業のみならず全ての教育活動に散りばめ、実践していくカリキュラムマネジメントが必要となります。

このようにIB認定校になるということは、IBの考えに共感し、その学校なりの方法でIBの考えを実現していく、学校や教員にとっての探究活動と言えます。

4 研究に基づくアプローチ

目標に近づくためにIBの教育では探究、概念、文脈、協働、インクルーシブ、評価を重要視し、カリキュラム

や単元、授業の設計を支える重要な要素として実践を推進しています。これらの要素は、目標に照らし合わせた上で選択したこれまでの教育学を含めた様々な研究や理論に基づいています。

単に他校の実践の真似をするのではなく、アカデミックな研究に基づいた設計のためのアプローチがあることはIBの教育の信頼性を高め、忙しくて自分では研究できない教員や学校の実践の根拠となり安心感をもたらしています。なぜ探究をするのか、なぜ協働をするのか、なぜ評価をするのか。目的が不明確なまま慣例としての実践や活動だけを繰り返すことがないような質保証の仕組みにもなっています。

5 おわりに

IB認定校が実践するIBの教育は単なる授業技術ではなく、また単なる海外大学進学へのパスポートでもなく、教育哲学に基づくカリキュラムであり、カリキュラムフレームワークです。学校のWebサイトや教室の黒板の上に掲げられた学校目標が単なるスローガンではなく、着実にそのような人材育成につながるように変革を起こすことは、学校の特色を全面に打ち出すことにつながります。学校の歴史、伝統、学校の所在地や生徒集団の特徴などの学校独自の文脈とIBの理念とそれに基づくアプローチを統合し、学びの在り方を模索し、環境を整え、それを学校文化にしていく点が国際標準と言われる所以です。IBの教育を通して学校の改革、教育トランスフォーメーションを推進することが可能です。

IBの指導のアプローチ	IBが参照している研究者(キーワード)例
探究を基盤とした指導	Grant Wiggins & Jay McTighe (理解をもたらすカリキュラム設計、逆引き設計、ビッグアイデア、永続的理解、本質的な問い)
概念理解に重点を置いた指導	Lynn Erickson(概念型カリキュラム、学習の転移、概念的理解、概念レンズ) Loyce A Lanning(概念型カリキュラム、学習の転移、概念的理解、概念レンズ) Rachel French(概念型カリキュラム、学習の転移、概念的理解、概念レンズ)
グローバルな文脈とローカルな文脈を反映した指導	Elaine Johnson(文脈学習) Dale Parnell(文脈学習)
効果的なチームワークと協働を重視する指導	Lev Vygotsky(発達の最近接領域)
学習への障壁を取り除いた指導	Carol Tomlinson(差異化)
評価を取り入れた指導	John Hattie(学びの可視化) Paul Black & Dylan William(形成的評価、学習のための評価) Loran Earl(学習として評価)

御興味のある方は下記まで御連絡ください。詳細を御案内し、認定までのサポートを致します。

国際バカロレア機構

日本担当地域開発マネージャー

星野あゆみ

ayumi.hoshino@ibo.org

(お知らせ)

国際バカロレア機構では、ディプロマプログラム (DP) の導入に関するイベントを各地域で開催予定です。3月の予定は以下のとおりです。

会議名:IBDP フォーラム in 大分

日時:3月14日(土) 9時30分～16時00分

場所:立命館アジア太平洋大学(大分県別府市十文字原1-1)

プログラム(案):

1. IB教育の紹介
2. IBDPについて
3. 実践例:DP導入:学校への影響(大阪府立水都国際中学校・高等学校)
4. DPで培うスキル:大学での活用(立命館アジア太平洋大学)
5. DP受講生・修了生のパネルディスカッション